

大里中学校 数学科シラバス 2 学年



1 授業のねらい（身につけて欲しい力）

教科書名「新しい数学2」

- ・文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立2元1次方程式について理解し、用いる能力を培う。また、連立方程式を利用して問題を解決することができるようにする。
- ・具体的な事象から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、1次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。
- ・基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに、平行線の性質や三角形の合同条件をもとにして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。
- ・平面図形の性質を三角形の合同条件などをもとにして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
- ・不確定な事象を調べることを通して、確率について理解し用いる能力を培う。

2 授業の進め方

- ・教科書『新しい数学2』（東京書籍）の内容を使用して授業を進めます。
- ・授業で行う評価問題、ミニテスト、単元テスト等を利用して、理解の定着を図ります。
- ・授業中にタブレットを活用して問題演習を行う場合もあります。
- ・発展的な問題は、個人・ペア・グループで取り組む場合もあります。
- ・電子黒板を利用し、図形等の視覚的な理解を深め、知識の定着を図ります。

3 学習上の留意点

- ・授業の内容が確認できるノート作りをすること。その際、自分の考えや大事なポイントや気付いたことを記入すると効果的です。ただし、板書を写すこと自体が目的ではないので、問題を解くべき時間にはきちんと取り組むこと。
- ・分からない問題をそのままにせず、先生や友達に聞いて理解するまで粘り強く取り組むこと。
- ・各種テストで間違えた問題は、必ず復習して自分のものにすること。

4 補助教材の活用方法（自学自習の進め方）

- ・予習復習には、教科書やスタディサプリを活用してください。スタディサプリの学習動画及び演習問題を参考にしてください。

5 テスト

- ・ミニテストや単元テストは、教科書やスタディサプリにもとづいて出題する。
- ・評価問題は、今日の授業で学んでことが理解できているのかを図るために行う。
※単元テストのみで評価が決まるわけではなく、次の評価の内容と方法で総合的に学習状況をみとって評価します。

6 評価の内容と方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	・評価問題 ・ミニテスト ・各種提出物 ・単元テスト等	・評価問題 ・ミニテスト ・各種提出物 ・単元テスト等	・課題 ・各種提出物 ・学びに向かう姿勢
方法	評価内容の項目ごとの満点に対して A：83%以上 B：50%以上83%未満 C：50%未満 と達成率で評価を算出し、総括して『知識・技能』の評価とします。	評価内容の項目ごとの満点に対して A：83%以上 B：50%以上83%未満 C：50%未満 と達成率で評価を算出し、総括して『思考・判断・表現』の評価とします。	評価内容の項目ごとの満点に対して A：83%以上 B：50%以上83%未満 C：50%未満 と達成率で評価を算出し、総括して『主体的に学習に取り組む態度』の評価とします。

この方法で学習状況をみとり、各単元ごとで示す「ルーブリック」に照らして評価します。

7 授業計画（見通しを持って予習・復習の自学自習に取り組みましょう。提出物も忘れずに！）

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
1学期	4	1章 文字式を使って説明しよう [式の計算] 1節 式の計算 2節 文字式の利用	・評価問題	・ 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。
	5		・ミニテスト	・ 文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え、具体的な場面を考察し表現することができる。
	6	2章 方程式を利用して問題を解決しよう [連立方程式] 1節 連立方程式とその解き方 2節 連立方程式の利用	・学びに向かう姿勢	・ 連立2元1次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。
	7	6章 起こりやすさをとらえて説明しよう [確率] 1節 確率 2節 確率による説明	・各種提出物 ・単元テスト等	・ 1元1次方程式と関連づけて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・ 連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 ・ 多数回の試行によって得られる確率と関連づけて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ・ 確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。
2学期	8	3章 関数を利用して問題を解決しよう [1次関数]	・評価問題	・ 事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。
	9	1節 1次関数 2節 1次関数の性質と調べ方 3節 2元1次方程式と1次関数 4節 1次関数の利用	・ミニテスト	・ 1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連づけて考察し表現することができる。
	10		・学びに向かう姿勢	・ 2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。
	11	4章 図形の性質の調べ方を考えよう [平行と合同] 1節 説明のしくみ 2節 平行線と角	・各種提出物	・ 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。
	12		・単元テスト等 ・実力テスト等	・ 多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 ・ 平行線や角の性質を理解している。 ・ 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確かめ、説明することができる。
3学期	1	3節 合同な図形	・評価問題	・ 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。
	2	5章 図形の性質を見つけて証明しよう [三角形と四角形] 1節 三角形 2節 平行四辺形	・ミニテスト	・ 証明の必要性和意味及びその方法について理解している。
	3	7章 データを比較して判断しよう [データの比較] 1節 四分位範囲と箱ひげ図	・学びに向かう姿勢	・ 定義やことがらの仮定と結論、逆の意味を理解している。
		【演習】 1年間のまとめ	・各種提出物 ・単元テスト等 ・実力テスト	・ 三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ・ 正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。 ・ 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。 ・ 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ・ 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読みとり、批判的に考察し判断することができる。 ・ 1年間の復習を通して、実力向上を図る。